

ななつかの風～

畜産技術センターニュース

発行事務局

● 広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町584番地
TEL 0824-74-0331
FAX 0824-74-1586

● 平成26年度の競争的資金研究課題が採択！

『難培養性ホモ発酵型乳酸菌を用いた発酵飼料の好気的変敗及びカビ防止技術の開発』

平成26年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「実用技術開発ステージ」に、岡山大学、岡山県農林水産総合センター畜産研究所、島根県畜産技術センター、雪印種苗株式会社と共同で応募した研究課題が採択されました。

研究内容は、自給粗飼料の増産と利用拡大で大きな阻害要因である発酵飼料の好気的変敗とカビ発生の防止技術の開発です。現在、これらの防止のため、酢酸を抗菌物質とするヘテロ発酵型菌種が用いられていますが、過剰な酢酸の生成は採食量を低下させる問題があります。そこで、新たに見出した難培養性ホモ発酵型乳酸菌を用いて、飼料作物、イネソフトグレインなどに利用できる新規微生物製剤の実用化をめざします。本県は、「たちすずか」の品質確保がターゲットです。



『九州における飼料生産組織、TMRセンター、子牛育成センターが連携する地域分業化大規模肉用牛繁殖経営の実証』

平成25年度補正予算、攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業の網羅型研究枠に九州沖縄農研センターとともに応募した研究課題が採択されました。広島県は、網羅型研究の中で九州地方の研究課題に参画し、「ロールベール簡易水分計の開発と実証」について取り組みます。

本県では、H25年度に新しいTMRセンターが整備され、高消化性飼料イネ「たちすずか」の利用が進められています。流通における「たちすずか」の価値を明確にするため、ロール中の水分含量を正しく評価し、商品としての円滑な流通や適正な飼料設計に貢献することをめざします。

成果獲得に、ご期待ください！

● 新任者紹介！

平成26年度の体制が決まり、畜産技術センターにも、やる気に燃えた3名の新任研究員が着任しましたので、みなさんに紹介します。

今井 昭 副主任研究員

平成10～14年、畜産技術センターで体外受精卵やクローン牛作出の仕事をしてました。このたび、県庁農林水産局畜産課から、育種繁殖研究部（当時は生物工学部）へ出戻りです。当時を思い出しながら、受精卵の作成や移植の研究に従事しています。本年の目標は、新たに6つの日本百名山に登頂することです（まだ2山のみ達成）。



栗原幸一 副主任研究員

北部畜産事務所防疫課から、育種繁殖研究部に配属となりました。乳用牛の繁殖に関する研究を主として行い、経腔採卵や体外受精の手技を習得中です。

直腸検査や人工授精は3年間のブランクですが、家畜診療所10数年の手先に浸み込んだ経験を思い出しながら、日々業務を行っています。

末永晋一 研究員

前任地の仕事は、横浜で小動物臨床医を約1年やっていました。畜技Cの仕事は現場での仕事が多く、やりがいを感じてます。七塚は自然が多く、近くに県立大学もあり、学食利用でも助かっており、恵まれた環境です。

今後、飼養技術研究部では牛の診療テクニックを身に付けたいです。今、プライベートでは温泉旅行に行きたいですね。



● イタリアンライグラス刈取り真っ最中！

刈取風景

昨年の10月に播種した家畜の大切な粗飼料になるイタリアンライグラスの刈取りが5月上旬から始まっています。

天候をにらみながら、草の反転、乾燥を繰り返し、乾草を調製します。春先の低温の影響がありました。収量は前年並みです。



編集後記：田植えが終了し、一安心。でも、雑草がはびこり・・・。

エルニーニョで冷夏が予想されていますが、早くから暑い日が続いています。

5月病に陥ることもなく、忙しく働いています。忙しいのが一番幸せなのでしょう・・・SS